

ワキ対策の水交換・軽い田干しと浅水管理で分けつ促進！

充実した茎を作るのは「いま」！ 6 月 25 日の中干し開始から逆算すると、6 月上旬にワキを解消して、6 月下旬頃までに活発に分げつできる環境を作りましょう。取りこぼし雑草や後発雑草が発生している圃場では、ワキの解消と合わせた除草対応を行いましょう。

生育状況（6 月 10 日現在、西置賜農業技術普及課生育診断圃）

「はえぬき」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	30.2	101	平年並
茎数(本/㎡)	197	109	多い
葉数(枚)	7.1	+0.7	多い
葉色(SPAD)	38.3	+3.5	濃い

「つや姫」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	29.7	99	平年並
茎数(本/㎡)	225	97	やや少
葉数(枚)	6.6	±0	平年並
葉色(SPAD)	39.0	+3.1	濃い

「雪若丸」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	26.7	100	平年並
茎数(本/㎡)	258	104	やや多
葉数(枚)	7.5	+0.4	多い
葉色(SPAD)	39.1	+0.2	平年並

ワキ対策・浅水管理を徹底！

- 夜間落水などで根圏環境の改善に努め**ワキ（土壌還元）がみられるほ場では、速やかに水交換や一時的な落水（2～3 日の田干し）**を行います。
- 藻の多発はほ場の地温を上がりにくくし、生育を抑制するため、水交換や田干しをしましょう。
- ワキが解消されることで根量や茎数が増加し、葉色も濃くなります。
- 土壌の強い乾燥状態（5 日程度の落水）や複数回の落水処理は、残草を助長するので避けましょう。

表 落水管理の状況と土壌の変化及び残草量

処理内容 (落水期間)	落水日	再度 湛水日	ワキ 解消 効果	残草量 (g/㎡, 乾物重)	雑草 対策
1 日	5/27	5/28	○	0.01	—
3 日	6/5	6/8	○	0.05	—
	6/12	6/15	○	0.04	—
落水 2 回	6/1	6/3	○	0.46	×
	6/10	6/12			
常時湛水	—	—	×	0.02	—

※水田農業研究所の試験研究成果(R3)から作成

3 日落水は表面水が見えず、足跡に水が残る飽水状態



写真1 3日落水区の根の様子（6 月 10 日）



写真2 3日落水の目安

有効茎数確保後は速やかに作溝・中干し！（6月25日には中干し開始）

- ほ場ごとの生育のばらつきが大きくなっています。ほ場ごとに生育状況を確認し**有効茎数を確保したほ場から遅れずに作溝・中干しを行いましょ**う。
- 作溝は作土が「ようかん状」の硬さで行い、作土がしまってから再度実施すると作溝の効果が高まります。
- 中干しの目安はほ場に小ヒビが入る程度**です。葉色や生育量に応じて中干しの強度（乾き具合）を調節します。
- 中干し後は、走り水で飽水管理をした後、徐々に間断かん水（2日湛水・2日落水）に切り替えます。

品種別の目標茎数の目安（本/株）

品種	1株当たりの目標茎数	
	70株/坪植えの場合	
はえぬき	23本	
つや姫	20本	
雪若丸	27本	
ひとめぼれ	24本	
あきたこまち	22本	

	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	23本	20本

作溝の効果：間断かんがいの効率化 → 根の活力維持、地耐力の向上

作溝は、高温時の水管理“飽水管理”にも有効

中干しの効果：無効分けつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化 → 登熟向上

今すぐ取り置き苗は処分！

- 梅雨に入ると、いもち病の感染に好適な日が増加します。**補植用取り置き苗は、葉いもちの感染源となります。早急に処分しましょ**う。
- 箱施用剤による葉いもちの防除を行っていない場合は、**6月20日までに本田施用剤を散布**しましょ



葉いもちの病斑

斑点米カメムシ類やが多い！（県病害虫防除所発生予察情報）

- 畦畔・農道、雑草地の除草（草刈り）を地域ぐるみで行い、地域全体の斑点米カメムシ類の生息密度を下げましょ
- 水田内のイヌホタルイやノビエはアカスジカスミカメの発生源になります。残草対策もしっかり行いましょ



アカヒゲホソミドリカスミカメ

アカスジカスミカメ

農作業事故と熱中症に要注意！ 声をかけ合い農作業事故ゼロへ！

こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった無理のない作業を心掛けましょ

山形県農薬危害防止運動 実施中！ 農薬を使用した際はしっかり記帳！

農薬を使用する際には、使用基準を再確認し正しく使いましょ